

# 問い直そう! 看護の実態を

看護職員の  
労働実態調査報告  
ダイジェスト版

## 大幅増員で安全でゆきとどいた看護



いま看護の現場は、かつてなく深刻な労働実態となり、患者のいのちと安全も脅かされています。「看護職員の労働実態調査」は全国でとりくまれ、看護現場の実態を改めて浮きぼりにするものとなりました。

看護職員が生き生きと働き続けられる職場をつくり、安全でゆきとどいた看護を実現するために、大幅増員が切実な課題となっています。

職場を見つめ直し、看護を問い直すことが、いま必要です。このリーフレットを活用し、職場討議を展開し、増員闘争を大いにすすめましょう。

**ini 医労連**

日本医療労働組合連合会

〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5 医療労働会館2F

☎03-3875-5871 Fax.03-3875-6270 ホームページhttp://www.ironen.or.jp

# 増え続ける業務量

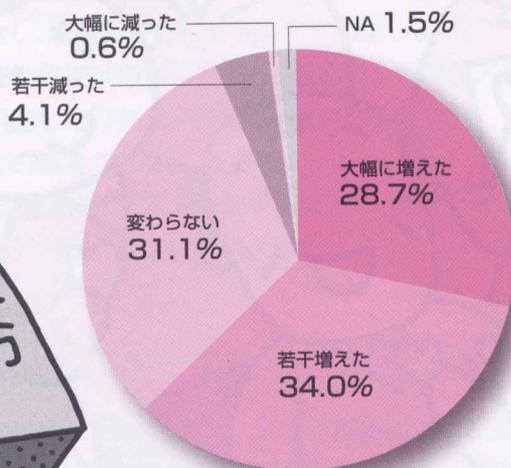


「看護職員の労働実態調査」の集計結果の特徴は第1に、看護現場が  
いっそう忙しくなり、労働条件が悪化していることです。絶対的人手  
不足の下で、仕事が終らず、休みも取れない深刻な実態です。

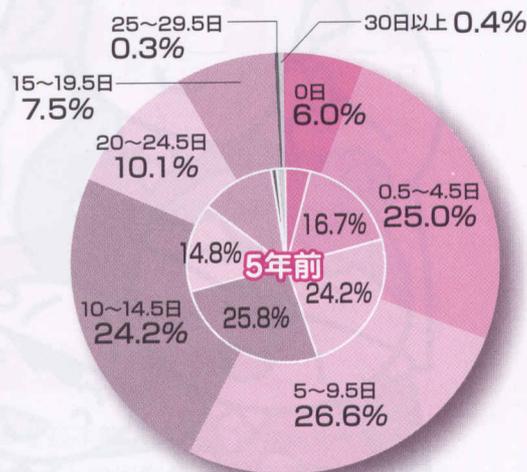
「最近、看護業務量が増えた」という回答が62.7%に達しています。「終  
業時間後の仕事時間が1時間以上」は5年前の33.5%から44.1%、「年次  
有給休暇の取得が年間5日未満」も5年前の20.8%から30.9%と、とも  
に10ポイント以上増えるなどしています。



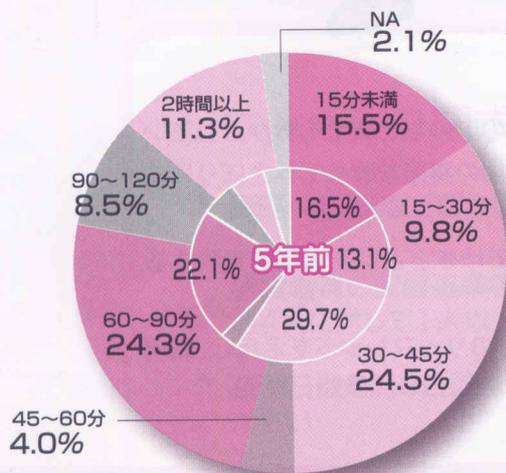
看護業務量増えた62.7%



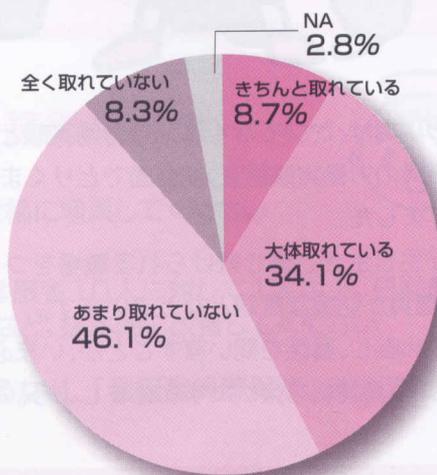
年休取得5日未満30.9%



業務後の残業1時間以上44.1%



準夜の休憩きちんと取れている8.7%

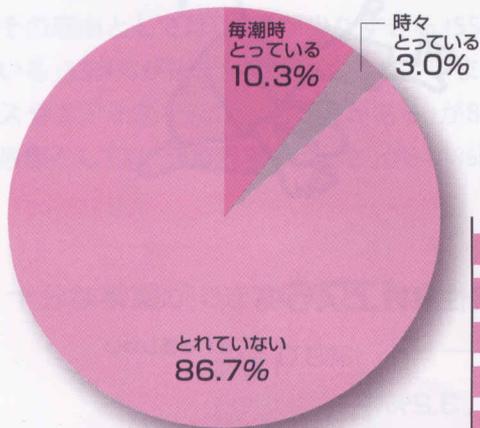


# 1 労働条件がいつそう悪化

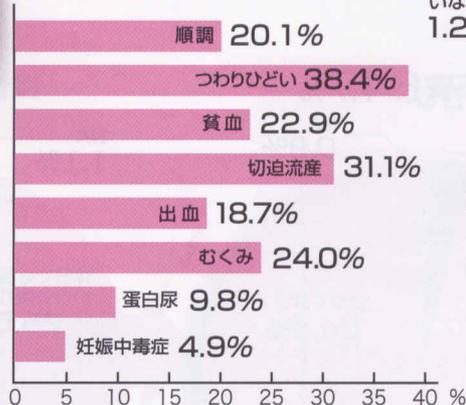
## 不払い 時間外労働は 若干改善

「残業代がきちんと払われている」だけは41.1%（1年前は33.3%）と、若干の改善が見られました。「退勤時間調査」など、全国の粘り強いとりくみの成果です。

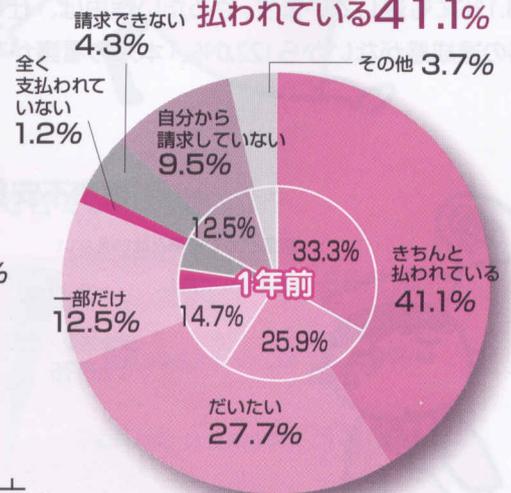
生理休暇とれていない86.7%



妊娠時の  
状況順調20.1%



残業が代きちゃんと  
払われている41.1%



## これが看護師たちの本音（「看護師メッセージ」より）

分きざみで業務をこなし、看護にあたっています。いろいろ訴える患者様の話をきく時間も十分にとれず、後ろ髪を引かれる思いで次のナースコールの対応に走らなくてはなりません。「ちょっと待って下さいね」と何度言わなくてはいけないことか……。

1分1秒を争うような忙しさが朝8時からずっと続き、夜は9時～10時まで残業。準夜勤務では朝5時過ぎとか、深夜勤務で昼休みの時間まで残業など。1人増えると、仕事はずいぶん楽になったと実感できるのに、今は3人も4人も5人も6人も不足していると実感します。

どんなにすばらしいマニュアルを作っても、そのマニュアルどおりにやるためには、少人数ではできません。これでは、正面きって『医療事故をおこせ』と言っているのと同じです。患者が安全でゆきとどいた医療や看護を受ける権利があるなら、私たち看護師には、その義務がある、いえ権利があります。絶対に看護師を増やして下さい!! 私たち看護師に、もっと患者と接する時間をください!!

毎日病院の中を走り回っています。自分の病気もあり、無理できないが、無理せずにはいられない状況です。身体のアちこちが苦痛で悲鳴を上げています。のむ薬がどんどん増えていって、代わりに自分の寿命が縮んでいるような気がします。休みたい、具合悪いと言えない中で働いています。もう限界です。それでも「なおかつがんばれ」というのです。何をどうがんばれば良いのですか。最近では眠れずおかしくなりそうです。

業務に追われ、業務をこなしていくことだけで精一杯の毎日です。しないといけないことがドンドン増え、日々、強い緊張感と恐怖とプレッシャーで、身も心もボロボロです。ふと鏡を見ると、やつれた自分がいて、何のために看護師になったのかと、考えさせられます。自分の看護観とは全くかけ離れています。ただ、今は、自分のなりたかった看護師の夢にすがって、ひたすら頑張る日々です。

残業の毎日で、我が家は父子家庭になりつつあります。3交替勤務なのに、2時間も3時間も残業なんて……。せめて日勤の日くらいは家族と一緒に夕食を食べたい、と願うのは夢なのか?? 看護師を増やして、家族の団らんを返してください! 少しは母である時間をください!

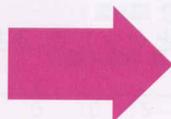
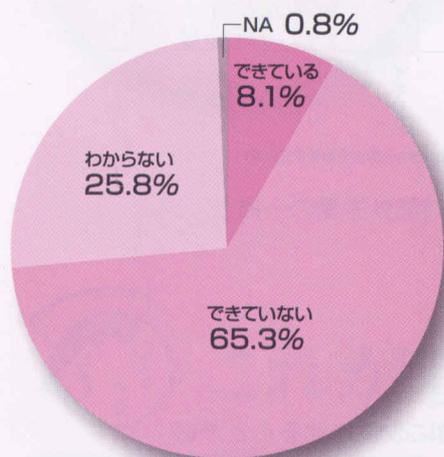
# 2 患者のいのちと安全もおびやかされ…

集計結果の特徴は第2に、超過密労働の下で、患者のいのちと安全も脅かされていることです。

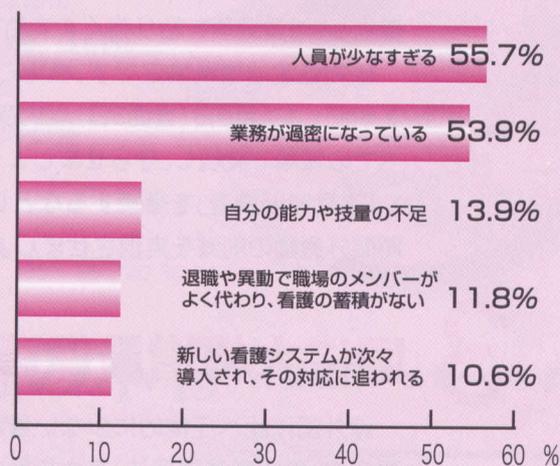
「十分な看護が提供できている」という回答はわずか8.1%に止まり、その理由としては「人員が少なすぎる」55.7%、「業務が過密になっている」53.9%が抜きんでて高くなっています。そして、「この3年間にミスやニアミスを起こしたことがある」が86.1%にも達し、医療事故の原因としては「医療現場の忙しさ」が84.1%の高率であげられています。



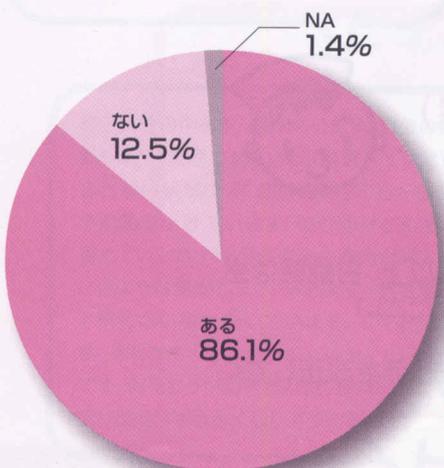
## 十分な看護ができている8.1%



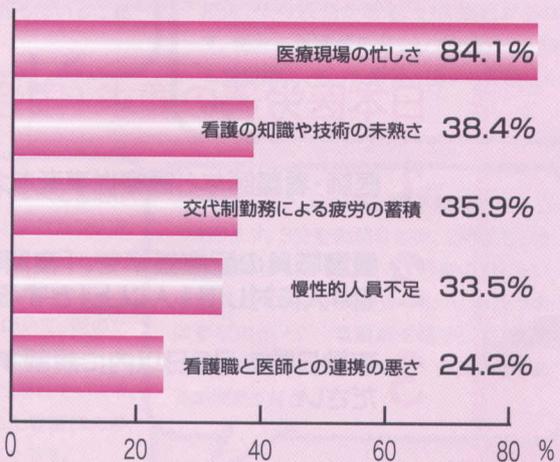
## できていない理由は？



## 3年間のミスやニアミス86.1%



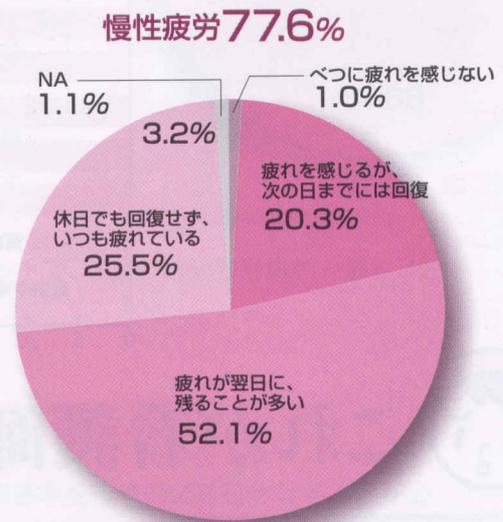
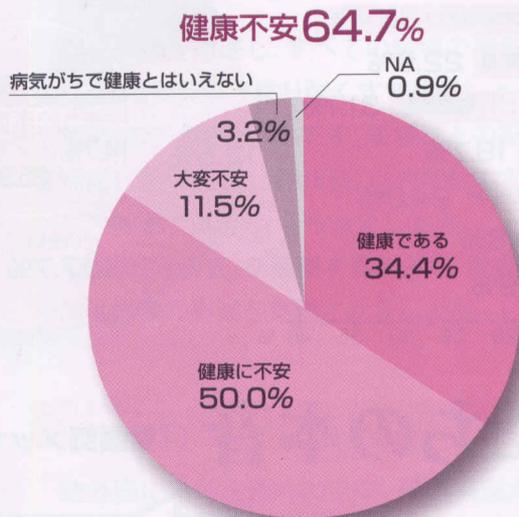
## 医療事故が続発している原因は？



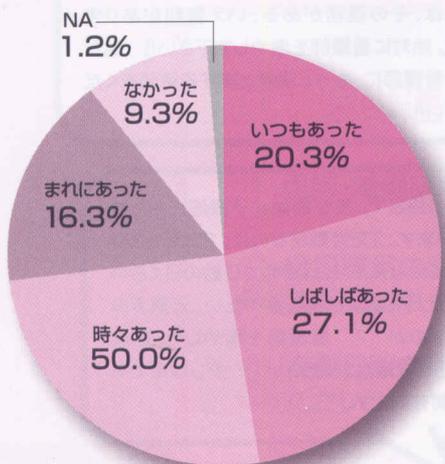
# 3 疲れはてバーンアウトが進行

集計結果の特徴は第3に、看護職員が疲れ果て、十分な看護もできないジレンマから、退職などバーンアウト(燃え尽き)が進行する看護師不足の悪循環に陥っていることです。

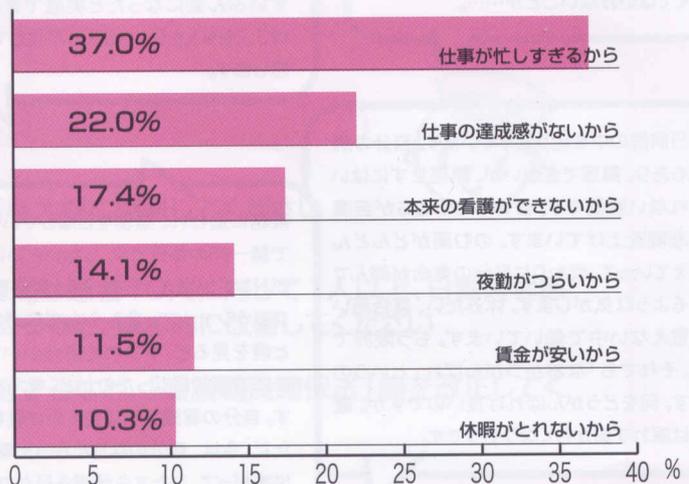
平均年齢35.9歳という比較的若い集団でありながら、健康不安が64.7%、慢性疲労が77.6%になっています。そして、「仕事をやめたいと思う」という回答が73.1%にも達しています。やめたい理由は、「仕事が忙しすぎるから」37.0%、「仕事の達成感がないから」22.0%、「本来の看護ができないから」17.4%などです。



## 仕事を辞めたい73.1%



## やめたい理由は？



# 看護師ふやせの大運動を

看護師さんを  
ふやして!



## 1 外に出て大きな世論をつくらう

大幅増員のカギは、「看護師増やせ」の世論をどれだけ大きなものにできるかです。病院周辺地域や駅頭・繁華街など、大いに外に出て世論に訴えましょう。「看護師など増員署名」を徹底して集めましょう(組合員1人10筆以上)。

こんなに少ない日本の人員体制



出典: OECD資料等から厚生労働省作成の資料

## 2 すべての職場から増員のたたかいを

職場討議を徹底し、すべての職場で増員要求を確立し、増員闘争を粘り強くすすめましょう。

夜勤協定は増員協定です。職場ごとの配置人員を明記した「月6日(当面8日)以内夜勤協定」を、すべての職場で実現し、守らせましょう。

「退勤時間調査」を継続するなどし、増員とセットで、不払い時間外労働の一掃と時間外労働の削減を実現させましょう。

## 3 国に大幅増員保障する制度改善求めて

諸外国に比べ圧倒的に少ない看護職員の配置基準を抜本的に改善させることが必要です。看護職員確保法・基本指針を改善し、夜勤日数の上限規制など、看護職員の労働条件の法整備が必要です。そして、財政保障を勝ちとります。

これらの実現のため、全地方議会決議や地元国会議員事務所要請行動をおこない、2007年通常国会で「看護師増員決議」をめざしましょう。

### 日本医労連の要求(国会請願署名の内容)



- 1 医師・看護師など医療従事者を大幅に増員してください
- 2 看護職員の配置基準を、「夜間は患者10人に対して1人以上、日勤時は患者4人に対して1人以上」とするなど、抜本的に改善してください
- 3 夜勤日数を月8日以内に規制するなど、「看護職員確保法」等を改正してください